

精一杯の愛でした。

その手紙は、

35年目のラブレター

笑福亭鶴瓶 原田知世

重岡大毅 上白石萌音

監督・脚本 塚本連平

3月7日(金) 全国公開

心温まる感動の実話

読み書きできない夫と幸せを教えてくれた妻が歩んだ人生





2007 結婚35年

西畑保 (笑福亭鶴瓶) × 西畑餃子 (原田知世)



1972 —— 出会い

西畑保 (重岡大毅) × 西畑餃子 (上白石萌音)

「君は、僕と結婚して、幸せでしたか？」

Story

西畑保、65歳。文字の読み書きができない。そんな彼の側にはいつも最愛の妻・餃子きょうこがいた。

保は貧しい家に生まれ、ほとんど学校へ通えず大人になった。生きづらい日々を過ごしてきたが、餃子と運命的に出会い、めでたく結婚。しかし、その手離したくない幸せ故に保は読み書きができないことを言い出せずにいた。半年後、ついにひた隠しにしてきた秘密が露見し別れを覚悟する保だったが、餃子は保の手をとりながらこう告げた。

「今日から私があなの手になる」

その言葉に、その眼差しに、保は救われた。

どんな時も寄り添い支えてくれた餃子へ感謝のラブレターを書きたい。定年退職を機に保は一大決心し夜間中学に通い始める。だが老齢のため物覚えも悪く、気付けば5年以上の月日が経過した頃、一字また一字と書いては消しまた書くひたむきな保と、それを見るともなく見守る餃子は結婚35年目を迎えるのだった……。